



いのちとくらしをまもる
防 災 減 災

令和4年6月20日
長崎地方気象台

夏から秋にかけての高い潮位に注意 高潮による浸水・冠水のおそれ

- ・長崎では7月から10月の潮位は、「冬から春」に比べ、約30cm以上高くなります。
- ・大潮の時期に、高潮や副振動（あびき）によって、さらに潮位が高くなると浸水や冠水のおそれ

海水の熱膨張などの影響により7月～10月の潮位は高くなります（図1、図2）。

特に大潮（満月と新月の前後数日）の期間中の満潮時は高く、台風や低気圧の接近による高潮や副振動（あびき）、および異常潮位などによってさらに潮位が高くなった場合、沿岸付近の低地では浸水や冠水の被害が発生するおそれがありますので注意してください。

気象庁では潮位の変動を常時監視しており、高潮などによって浸水被害が発生するおそれがある場合には、高潮特別警報・警報・注意報や潮位情報を発表します。

7月中旬～10月下旬における満潮の潮位が特に高い期間は次のとおりです。

満潮の潮位が特に高い期間	
7月12日～7月18日（満月：7月14日）	7月27日～8月2日（新月：7月29日）
8月10日～8月16日（満月：8月12日）	8月25日～8月31日（新月：8月27日）
9月8日～9月14日（満月：9月10日）	9月24日～9月30日（新月：9月26日）
10月8日～10月14日（満月：10月10日）	10月23日～10月29日（新月：10月25日）

長崎地方気象台のホームページには、高潮特別警報・警報・注意報や潮位情報、各地の観測潮位や天文潮位を掲載していますのでご利用ください。

- ・長崎地方気象台ホームページ：<https://www.data.jma.go.jp/nagasaki-c/index.html>

九州・山口県の情報は、福岡管区気象台ホームページの以下アドレスをご覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/fukuoka/kaiyo/tide/tidesummer/index.html>

問い合わせ先

長崎地方気象台 電話 095-811-4862

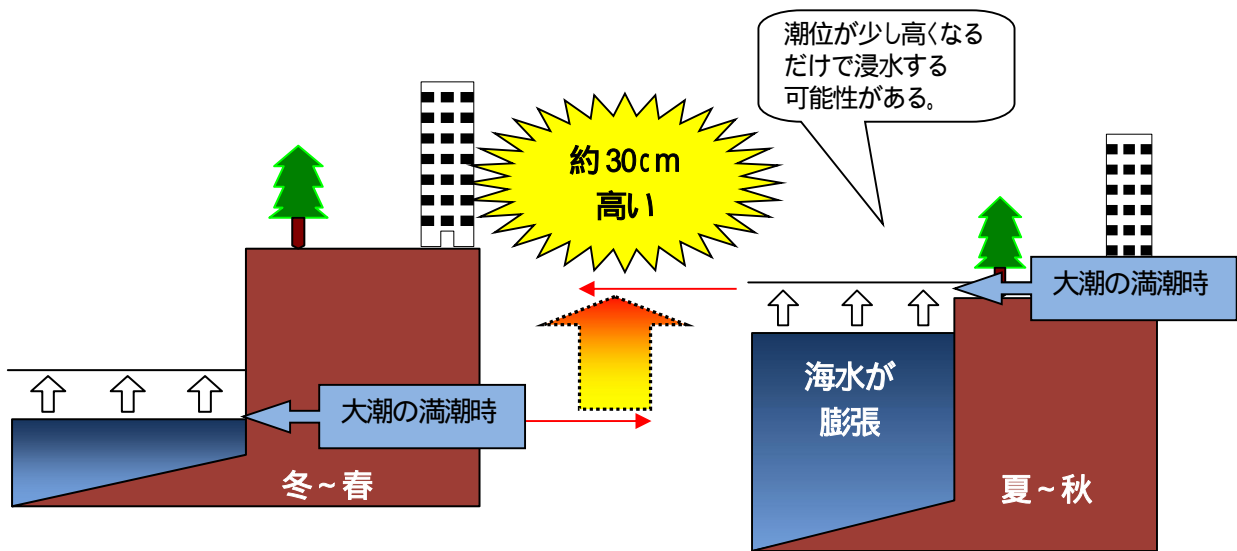


図1 冬~春と夏~秋での潮位の比較

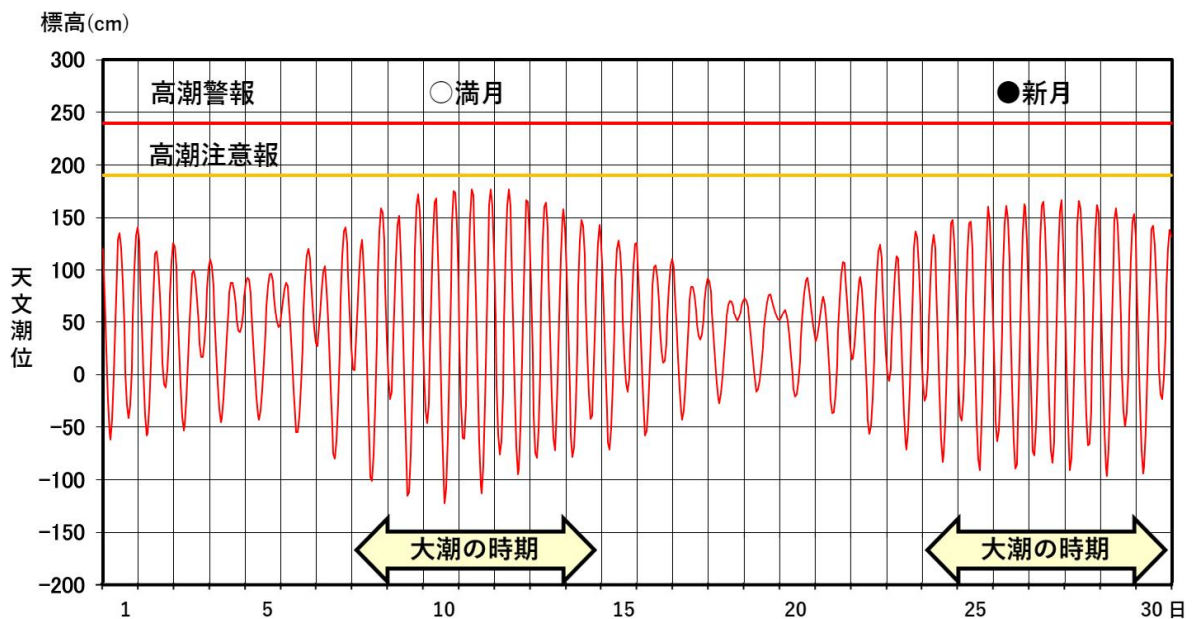
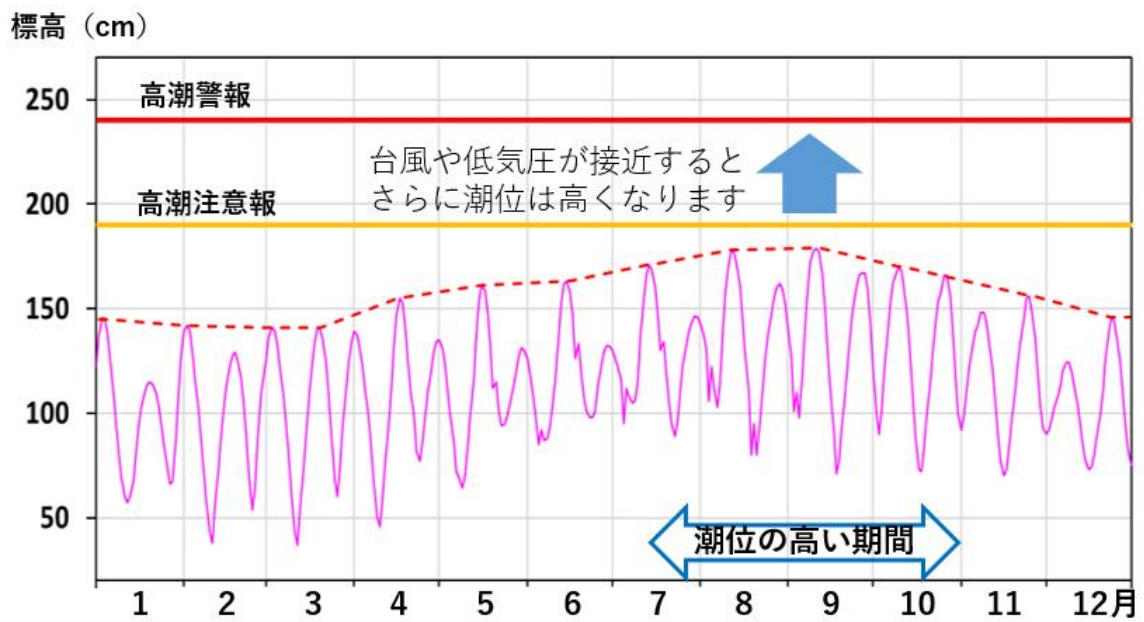


図2 長崎における2022年の天文潮位の日最高値（上）と9月の天文潮位（下）

用語の解説

潮位 (天文潮位、観測潮位)

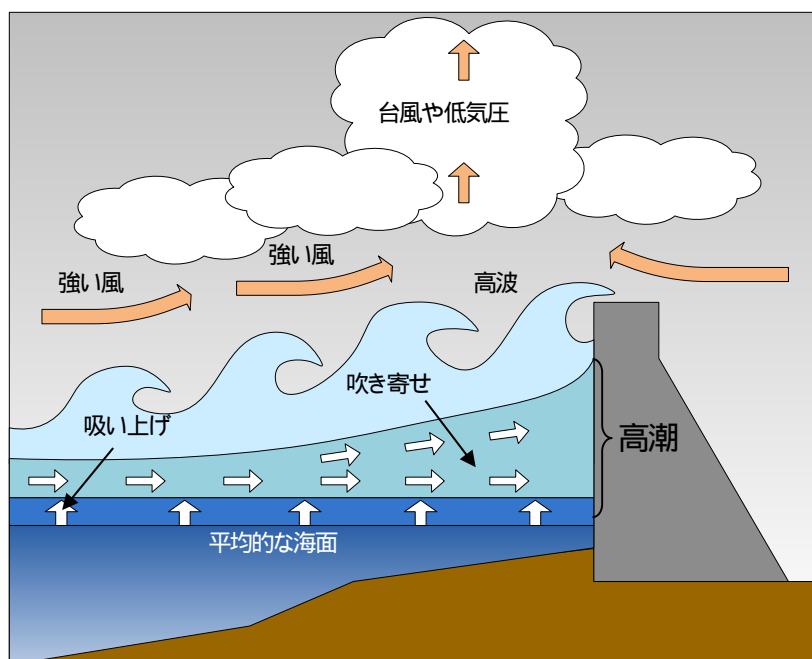
海面は、約半日の周期の満ち引き (満潮・干潮) によってゆっくりと上下に変化しており、ある基準面から測った海面の高さを**潮位**といいます。満月と新月の前後数日の大潮は満潮と干潮の潮位差が大きくなります。潮位の変化は、主に月や太陽の起潮力によって生じるので、過去に観測された潮位データ解析から計算して予測することができ、その予測した潮位を**天文潮位**といいます。一方、検潮所などで観測された潮位を**観測潮位**といい、天文潮位と観測潮位との差を潮位偏差といいます。

高潮

高潮は、主に台風や低気圧に伴う気圧降下による「吸い上げ効果」と風による「吹き寄せ効果」のため、海面が異常に上昇する現象です。夏から秋にかけては、台風が日本に接近または上陸する時期にあたり、高潮による被害が発生しやすくなります。

吸い上げ効果：台風や低気圧の中心付近では気圧が低いため、大気が海面を押し付ける力が周囲より弱くなり海面が上昇します。これを「吸い上げ効果」といい、気圧が1hPa下がると海面は約1cm上昇します。

吹き寄せ効果：台風などに伴う強い風が沖から海岸に向かって吹くと、海水が海岸に吹き寄せられるため海面が上昇します。これを「吹き寄せ効果」といいます。遠浅の海や風が吹いてくる方向に開いた湾では吹き寄せ効果が大きく、顕著な高潮が発生しやすくなります。



高潮が起こる仕組み

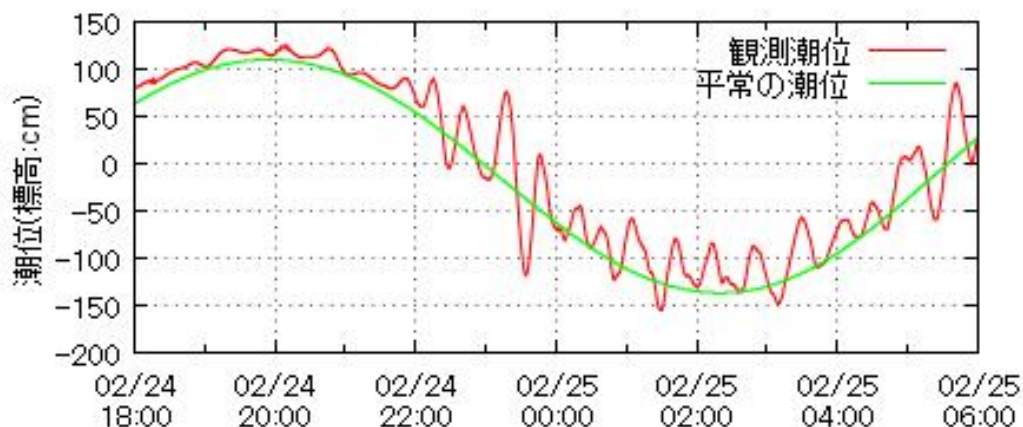
異常潮位

異常潮位は、潮位が比較的長期間（1週間から3か月程度）継続して平常より高く（もしくは低く）なる現象です。原因は様々で、暖水渦の接近、黒潮の蛇行等があります。

副振動（あびき）

副振動（あびき）は、湾・海峡や港湾などで発生する周期が数分から数十分程度の海面の昇降現象です。台風や低気圧などの気象じょう乱に起因する海洋のじょう乱や津波などによって発生した海面の変動が湾内の固有振動と共鳴して起こります。

2009年2月には九州地方から奄美地方にかけて大きな副振動（あびき）が発生し、一部地域では漁船の転覆や家屋への浸水などの被害が発生しました。



2009年2月24～25日に長崎で起こった副振動

なお、長崎湾で発生する副振動のことを「あびき」といい、速い流れのため魚網が流される「網引き」に由来すると言われていています。現在は長崎に限らず、九州西方で発生する同様な現象に対して広く用いられるようになってきました。